

この伝統を見届けよう

東京六大学野球 100周年 × KEIO

WASEDA

KEIO

MEIJI

HOSEI

TOKYO

RIKKIO

早稲田大学からの挑戦を受けて1903（明治36）年に始まった早慶戦は、応援の過熱ぶりで一時中断されるほど社会現象化したと伝えられています。明治大学を加えた3大学によるリーグ戦にやがて法政大学、立教大学、東京大学も参加し、1925（大正14）年に「東京六大学野球連盟」が誕生しました。以来、毎年春と秋のリーグ戦を通じて、六大学野球は数々のドラマを生み出し、今年2025年で100周年を迎えました。大学最古のリーグであり、野球界で唯一優勝校に「天皇杯」が授与される東京六大学野球は「伝統」とであると同時に、現役学生が活躍する「今」の晴れ舞台でもあります。「大学野球」への情熱を明治神宮野球場（以下、神宮球場）で体感してみましょう。



PEN ペン

RECORD

東京六大学野球での野球部の記録

優勝回数 **40回**（六大学中4位）

通算最多本塁打 **23本** 高橋由伸君（1994～1997年）

連続試合本塁打 **5試合** 岩見雅紀君（2017年秋）

連続試合安打 **22試合** 山村泰弘君（1949年秋～1950年春）

シーズン最多安打 **30本** 山村泰弘君（1949年秋）

シーズン最多打点 **22打点** 青島健太君（1979年秋）

完全試合 渡辺泰輔君（1964年春 対立教大学1-0）

こんな記録も！

最長試合時間 **4時間48分**（1967年春 慶法戦、2-2 15回引分け）

HISTORY

東京六大学野球 年表

1872（明治5）年 日本に野球が紹介される

1888（明治21）年 「三田ベースボール倶楽部」（野球部の前身）結成

1892（明治25）年 慶應義塾体育会野球部 発足（日本最古の大学野球部）

1903（明治36）年 早稲田からの挑戦状を慶應義塾が受け最初の早慶戦開催。以降定例戦になる

1906（明治39）年 応援の過熱により早慶戦が中断される

1914（大正3）年 明治大学野球部の発起により、早・慶・明の三大学リーグ結成

1917（大正6）年 法政大学が参加し四大学リーグになる

1921（大正10）年 立教大学が参加し五大学リーグになる

1925（大正14）年 東京大学が参加し、早慶戦も復活。現在の東京六大学野球リーグになる

1926（大正15）年 明治神宮野球場が完成

1943（昭和18）年 戦争激化で学生野球が中止。出陣学徒への饗として早慶壮行野球試合開催

1945（昭和20）年 10月に六大学OB戦、11月に全早慶戦を行い野球復興の先鞭となる

1946（昭和21）年 六大学リーグ戦復活

六大学野球を隅々まで味わい尽くすための必読ガイド！

LET'S GO OUT TO THE BALL GAME



事前準備編

チケットを
買おう！

1

予習&
持ち物の準備！

2

エール交換

試合前・7回・試合終了後には各大学応援席が一体となって互いの健闘を祈り盛り上げる「エール交換」が行われます。各大学の校歌・第一応援歌の演奏と力強い歌声がスタジアムに響き渡り、大きな校旗（慶應義塾では塾旗）がスタンドに掲げられる様子は圧巻！

試合終了後、勝敗に関係なく互いの健闘をたたえ合って交わされるエール交換はまさにフェアプレー精神の象徴といえるでしょう。なお、エール交換中は応援席の入退場ができません。相手校への敬意をもって、起立・脱帽・静粛にご協力ください。

塾歌・応援歌

攻撃中はさまざまな応援歌を歌いつないで盛り上げる「チャンスバターン」と呼ばれる応援が行われます。第一応援歌「若き血」、早慶戦勝利時のみ歌うことのできる「丘の上」、高校野球でもおなじみの「ダッシュケイオー」など。応援の仕方は応援指導部の塾生がリードしてくれますが、事前に応援指導部のSNSをぜひチェックしてみてください！



慶應義塾公式
YouTube



慶應義塾
応援指導部
公式X

持ち物

レインコート・
ポンチョ

羽織りもの

ゴミ袋

帽子・日焼け止め



水分補給、日差し対策や気温の変化、降雨などに備えて上記のものを用意しましょう。雨天の場合、傘の使用は危険なため、レインコートやポンチョがおすすめ。持ち物がぬれるのを防ぐため家庭用ゴミ袋があると便利。

観戦時の 注意事項

3

- ・一度入場すると再入場はできません
- ・ビン・缶・アイスボックス類は持ち込み禁止
- ・味方の攻撃では飲食を控えるのがマナー
- ・塾旗には触れない
- ・飲酒禁止、喫煙は喫煙所のみ
- ・許可証がない人は応援席での撮影禁止

席種は内野席、学生内野席、外野席、応援席、ファミリーシート、ペアシートがあり、内野席と外野席は各ブレイカイドで前売り券を購入できます。それ以外は当日券のみで試合日にチケット売り場で購入します。当日限り有効のチケットですが、もし全試合が中止の場合は振替日に観戦可能。払い戻しはありません。なお「早慶戦」の応援席券は販売方法が異なり、両大学内での販売となります。慶應義塾では三田・日吉・SFCの各キャンパスで前売り券を販売。東京六大学野球連盟公式サイトでチェック！



一般財団法人
東京六大学野球連盟
公式Webサイト

東京メトロ銀座線「外苑前」駅から徒歩約5分の神宮球場に向かいます。



1 外苑前集合！

実践編

2 神宮球場が見えてきた

2

神宮球場



通称「スタジアム通り」の整備された歩道を歩き始めると、間もなく正面右手に球場施設が見えてきます。



1 塁側入場口

3 塁側入場口



スタジアムへの入場口は1塁側と3塁側の2カ所。今日の慶應義塾大学の応援席は3塁側です。

3 いざ入場！

文学部2年 島森沙奈美君
文学部3年／編集長 工藤佑太君
文学部2年 梅木陽咲君

4月26日（土）の対明治大学戦を「ケイスポ」の3名に案内してもらいました。

4 応援グッズを 確認！

場外で慶應義塾の紅茶サークルがキッチンカーで販売するアイスティーを購入！



球場内の売店で軽食も購入できる



入場口を入ると応援指導部の部員が応援のための紙製メガホンやパンフレットなどを配布しています。



「東京六大学野球
発祥の地」記念碑
今年4月12日に除幕。
黒い台座に白いボール
を模した御影石製の碑。

慶應スポーツ新聞会(ケイスポ)

今年度のケイスポでは、早慶戦に合わせた新聞製作のほか、Web記事を充実させようとするさまざまな企画を行っています。各競技や選手の熱量を彼らと同世代の私たちが伝えることで、塾生やファンに大学スポーツをより深く楽しんでもらいたいと思い活動しています。私たちの記事や写真をきっかけに、慶應義塾体育会に興味を持っていただけたらうれしいです。

編集長 工藤佑太



応援指導部の吹奏楽団、チアリーディング部のリードで応援席は盛り上がります。エール交換で歌われるのは試合前後が塾歌、7回のみ「若き血」です！



スタンドから見えるグラウンドと応援席の光景も野球観戦の楽しみの一つ！

スタンドからは こんな眺め

5



試合前の
エール交換

応援指導部の歴史も古く、1933年創部です



ケースポメンバ 推しの選手は？

福井直睦選手（2年）

慶應義塾高で甲子園優勝を経験、大学でも1年春からリーグ戦に出場しています。（工藤君）

吉野太陽選手（3年）

力強いバッティングが魅力！吉野選手のホームランが流れを変える！（梅木君）

外丸東真選手（4年）

慶應のエース！ラストイヤーの今年はその真価を発揮してくれるはず。（島森君）

ケースポも編集に関わる無料のパンフでチーム情報を知ろう



東京六大学野球100周年 特別イベントにはこんなものも！

リーグ戦期間には、各大学から選ばれたレジェンドOBが始球式に登場。春は、4月14日に元祖「慶應のプリンス」山下大輔君、5月18日に高橋由伸君が登板しました。秋季リーグは誰がマウンドに立つか、今から楽しみですね！さらに11月には、NPB関係者と六大学現役選抜チームによる記念試合も予定されており、六大学野球ファンもプロ野球ファンも目が離せません。

高橋由伸君についてはp.12
塾員山脈をチェック！



山下大輔君

1974年商学部卒業。ドラフト1位で大洋ホエールズに入団。1976年から8年連続でダイヤモンドグラブ賞（現ゴールデングラブ賞、遊撃手部門）を受賞。引退後は横浜ベイスターズや東北楽天ゴールデンイーグルスで監督、コーチなどを歴任。



伊藤公平塾長も
始球式に登場！

この伝統を見届けよう

東京六大学野球

100周年×KEIO

いよいよ
試合開始！

6



1回表、常松広太郎選手がレフトへの2ランホームランを放ち、幸先の良いスタート。6回に1点返されますが、両チームの投手が要所を抑える息詰まる展開が続きます。

他競技も熱い！ 体育会の注目試合 ラインナップ

□競走部

8月11日（月・祝）
早慶戦 @日吉陸上競技場

□サッカー部

8月17日（日）
早慶戦 @Uvanceと
どろきスタジアム

□剣道部

10月12日（日）
早慶戦 @日吉記念館

六大学野球の秋季リーグの日程は8月上旬発表予定！



体育会の試合のショート動画を公開中！チャンネル登録、よろしくお願いします。

対明治戦の応援「孔明」でしか使われないドラムも登場



回ごとに変わる応援歌と応援団のパフォーマンスも生観戦の大きな楽しみです。

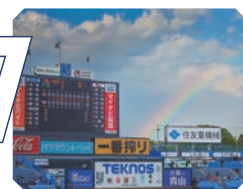
神宮球場で同世代の選手たちの戦いぶりを目の前で見ることによって、1世紀にわたって東京六大学野球が愛されてきた理由が分かった気がします。そしてあらためて野球の面白さ、大勢で応援する楽しさを感じました。次は勝つぞ！（梅木君）

手に汗握る熱戦で、あらためて東京六大学野球の伝統を肌で感じることができる好ゲームだったと思います。最後まで応援を楽しむことができました。今後もケイスポの活動を通して大学スポーツをさらに盛り上げていきたいです。（工藤君）



観戦の余韻を
楽しむ！

7



雨天中断の後、虹が。試合は2-3で痛恨のサヨナラ負け。でもこの悔しさが次の勝利につながる！

選手たちを応援することで毎回自分も大きなパワーをもらっています。野球部員、応援指導部員、塾生、塾員の皆さんが、歴史ある球場に会して熱い戦いを見守る姿から、代々引き継がれてきた深い「慶應愛」を感じました。（島森君）

選手だけじゃない！ 六大学野球を支える人たち

審判員

1999年経済学部卒業
審判員歴 26年

鈴木隆行君
すずき たかゆき

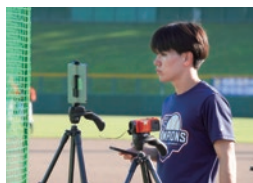


卒業した1999年春から東京六大学の審判員に任命され、以来、常にその歴史と伝統の重さを胸に刻み、慶應義塾の代表として六大学の屋台骨を支えているという強い気持ちを一度も忘れることなく今年で27年目を迎えた。私は六大学の出身であることを心底誇りに思うと同時に果たさねばならない義務について次のように認識している。それは人の心の痛みがわかる社会の真のリーダーになることだ。高貴なる者が負うべき使命を果たし、一人でも多くの人々から認められる人物を目指し、成長し続ける責務があることを、この節目の年に再認識している。

体育会野球部学生アナリスト チーフアナリスト

総合政策学部4年

小嶋樹生君
こがもいつき



アナリスト部門は、新設から6年目を迎えました。発起人である佐々木勇哉さん（2024年卒業）の志を受け継ぎながら、

「選手の成長とチームの勝利のために何ができるか」という問いを胸に、日々活動しています。

成績や測定機器を駆使し、データを取得・可視化・分析した上で、得られた知見を選手や首脳陣への確に還元することを重視しています。単なる数値の提示にとどまらず、こまやかな対話を通じて背景にある課題や可能性を共有し、プレーや戦略の質を高めることに貢献しています。チームを支える立場として、見えない力で変化を生み出します。

慶早戦支援委員会 委員長

商学部4年

原 惇人君
はら あつひと



我々慶早戦支援委員会は野球のみならず、アイスホッケー・バスケットボール・バレーボールなど多くの体育会競技の慶早

戦にも参加し、円滑な運営の支援をしております。慶早戦は単なる勝敗を争う試合ではありません。慶早戦は伝統と情熱の結晶であり、選手一人一人が胸に抱く熱意と覚悟、そして応援の声が重なり合う瞬間には、言葉にすることができない感動があります。ぜひ球場や競技場に足を運び、すべての競技に込められたその情熱を肌で感じていただければ幸いです。皆さまと共に、慶早戦というかけがえのない時間を共有できることを、心より楽しみにしております。

六大学野球復活ではじまった戦後復興

常任理事・看護医療学部 教授

山内慶太やまうち けいた

第二次世界大戦の敗戦から間もない昭和20年10月28日、六大学OBによる紅白試合が、そして、11月18日、OBと学生からなる全早慶戦が神宮球場で開催された。

この全早慶戦は、早慶野球部関係者の熱意によって実現したものであるが、虚脱感を抱えた国民にとって、明るいニュースであった。後に慶應義塾に入学し、ミュンヘンオリンピック男子バレーボールの優勝監督にもなった故松平康隆氏は、当時旧制府立中学の4年生で球場にかけつけた。満員のスタンドに「生きている、ああ死ななくてすんだ」と感じ、「私に終戦を一番感じさせてくれたのが、あの早慶戦だった」と述懐している。

そして、昭和21年春、六大学野球リーグ戦が復活する。復活した六大学野球は、戦後の野球ブームを生み出すことになった。実際に、この時期にさまざまな野球雑誌が創刊されたが、いずれも六大学野球を大きく取り上げている。また、子供たちに広く愛読された月刊誌『野球少年』の表紙には、早慶をはじめ六大学の選手たちの姿が多く

描かれていて、そのブームが子供たちにも及んでいたことをよく示している。ちなみに、当時の野球かるたには、「けいおうけいおうりくのおうしゃ」（けの札、「みやこのせいほくわけだのもりに」（みの札）とある。

六大学野球復活は、戦地や勤労動員先から戻ってきた各校の学生たちの気分、学園の雰囲気にも大きな意味を持つものとなった。医学部の学生で応援指導部員であった故野崎繁博氏から聞いた話は印象深い。戦争が終わっても塾生たちは目の前の生活で精いっぱい。キャンパスに活気を取り戻すにはどうしたらよいか。部員たちは思案する中で、それには早慶戦をするのが一番だと、復活早慶戦の実現に、そしてリーグ戦の応援指導に努力したのであった。その取り組みは「学園復帰運動」であったという。

実際に、応援指導部が昭和21年11月に出版した『慶應歌集』の序文には「戦争は終わった。緑の色濃い神宮外苑の芝生に坐して六大学野球選手のプレーをじっと見つめる時、吾々は戦争の終わった（こと）を」今更の様に身に沁みて感じさせられる。戦争は終

わった。学生は学園へ、吾々に与えられた課題はこの一語に盡きる」とある。

六大学野球の復活で、各校で新たな歌も生まれた。慶應義塾では、「見よや見よ自由の先駆われ」「塾祖の理想世に敷かん」と歌った『我ぞ覇者』、『我等が若き力以て理想の祖国を打建てん』と歌った『慶應讃歌』等が作られた。慶應義塾は、戦時中は福澤の自由主義の学校としてさまざまな抑圧を受けた。それだけに新たな時代に塾の理想を実現するのは若き塾生たちであると期待するこの歌詞の切実さは、今想像する以上に大きなものがあつたであろう。応援の雰囲気と共に歌からも塾生たちは大きな力を得たに違いない。

慶應義塾は、三田、信濃町等で甚大な空襲の被害を受け、日吉もGHQに接収され戦後の復興には苦勞することになる。その復興に弾みをつけたのは、昭和22年の創立90年記念式典であつたが、このきっかけを作り実現に協力したのも、復活した六大学野球を支え、この歌集の編集に尽力した塾生たちであつた。